

IBL REPORT

第35期 報告書

平成28年4月1日

▼
平成29年3月31日

株主の皆様へ



ごあいさつ

平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
昨年、遺伝子組換えカイコの繭由来の医薬品原料製造(GMP準拠)に向けたパイロットプラント(群馬県前橋市)が稼働し、医薬品原料や動物医薬品原料、さらに体外診断用医薬品原料などの研究開発や大量生産に向けた取り組みを行っております。その中で、様々な問題や課題が浮き彫りになっておりますが、我々はその状況を打開し、新たな価値創造を推進してまいります。

さらに、今年3月に上場10周年を迎えるとともに、おかげさまで9月9日には創立35周年を迎えます。

これもひとえに、株主様をはじめとする、ステークホルダーの皆様のご支援の賜物と深く感謝しております。

今後、事業基盤である診断・試薬事業をさらに強化し、遺伝子組換えカイコ事業をはじめ、検査事業及び化粧品関連事業を新たな柱に成長させ企業価値の向上に努めてまいります。

ここに、平成29年3月期の報告書をお届けいたします。

株主の皆様におかれましては、今後ともご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 高橋 勉

企業理念

抗体を通じて、世界で難病に苦しむ人々が1日も早く病気を克服し明るく豊かな暮らしを営めるように貢献いたします。

次ページより、当社グループの紹介をしております▶▶▶

財務データ

		H25.3	H26.3 (連結)	H27.3 (連結)	H28.3 (連結)	H29.3 (連結)
売上高	(百万円)	800	670	729	717	741
営業利益(△は損失)	(百万円)	8	△107	△181	△75	△1,156
経常利益(△は損失)	(百万円)	80	△99	△139	△81	△1,170
親会社株主に帰属する当期純利益(△は損失)	(百万円)	—	△114	△158	△31	△2,094
当期純利益	(百万円)	153	—	—	—	—
1株当たり当期純利益(△は損失)	(円)	24.83	△17.99	△24.20	△4.86	△287.52

※平成25年3月期は非連結になります。また、1株当たり当期純利益につきましては、平成25年10月1日に普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っているため、分割後の数値に修正して記載しております。



株式会社免疫生物研究所
Immuno-Biological Laboratories Co., Ltd.

証券コード 4570

【診断・試薬事業部門と検査事業部門のコラボ】

学会への共同出展による相乗効果をめざして

当社グループは、診断・試薬事業部門と検査事業部門で、全国の代理店網への営業活動や直接ユーザー様への訪問活動を強化しており、昨年に引き続き、年間を通して国内外の学会参加に積極的に取り組んでいます。昨年刷新した当社ホームページも非常に好評で、新規製品を始めとし既存製品の販売数量の増加を目指してまいります。

2017年度 学会展示スケジュール (予定)



【4月】(SLBと共同展示)
第85回 欧州動脈硬化学会
プラハ、チェコスロバキア共和国



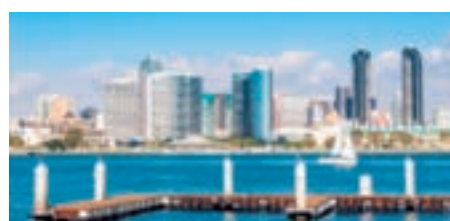
【5月】(SLB展示)
第71回 日本栄養・食糧学会
沖縄、日本



【5月】(SLBと共同展示)
第60回 日本糖尿病学会
名古屋、日本



【5月】(IBL展示)
第60回 日本腎臓病学会
仙台、日本



【6月】(米国代理店と共同展示)
第77回 米国糖尿病学会
サンディエゴ、USA



【7月】(米国代理店と共同展示)
第69回 米国臨床化学会議
サンディエゴ、USA



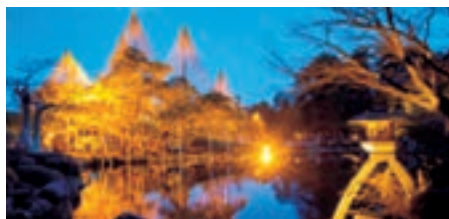
【7月】(SLBと共同展示)
第49回 日本動脈硬化学会
広島、日本



【9月】(欧州代理店と共同展示)
第53回 欧州糖尿病学会
リスボン、ポルトガル



【10月】(SLBと共同展示)
第38回 日本肥満学会
大阪、日本



【11月】(IBL展示)
第36回 日本認知症学会
金沢、日本



【11月】(米国代理店と共同展示)
第47回 ニューロサイエンス
ワシントンDC、USA

SLB：株式会社スカイライト・バイオテックの略称です。

ネオシルク®-ヒトコラーゲンI フレヴァンシリーズ



「スキンケア商品は毎日使うもの。だから、体に害がない安心なものを使いたい。」というユーザー意識は国内外問わず高まりつつあります。健やかで若々しいお肌を持ち続けたいと願う全ての人々に、安心して毎日使っていただけるように開発されたスキンケア商品が「フレヴァン」です。ネオシルク®-ヒトコラーゲンIは、魚や豚などの異種動物由来と違い、ヒト体内のコラーゲンのアミノ酸組成と同じため、アレルギーや炎症をおこす可能性が低いと言われております。

フレヴァンシリーズの全てのスキンケア製品には、ネオシルク®-ヒトコラーゲンIが配合されております。今後も引き続き、安全なスキンケア製品をお届けすることをお約束いたします。



第35期の主なニュース

【診断・試薬事業】

単位：千円	前期	当期	増減%
売上高	527,623	556,015	5.4%増
営業利益	121,736	117,858	3.2%減

(売上高)

- ⇒受託サービスの増加
- ⇒動物用体外診断用医薬品の減少
- ⇒診断薬原料の販売が順調に推移
- ⇒抗体の増加

【遺伝子組換えカイコ事業】

単位：千円	前期	当期	増減%
売上高	67,433	71,809	6.5%増
営業利益	△142,444	△1,239,697	—

(売上高)

- ⇒研究用タンパク質の受託生産売上
- ⇒培養足場材の販売開始

(営業利益)

- ⇒前橋研究所の資産を研究開発費へ一括計上

【検査事業】

単位：千円	前期	当期	増減%
売上高	111,756	105,228	5.8%減
営業利益	△20,158	△18,309	—

(売上高)

- ⇒海外販売の大幅売上増加
- ⇒国内販売の売上減少

【化粧品関連事業】

単位：千円	前期	当期	増減%
売上高	15,793	13,804	12.6%減
営業利益	△35,447	△17,743	—

(売上高)

- ⇒通販部門で売上高減少
- ⇒大手ドラッグストアでのテスト販売開始
- ⇒国内外からの引き合い増加

業績(連結)

単位：千円	平成28年3月期 (第34期)	平成29年3月期 (第35期)	前年比
売上高	717,661	741,525	+3.3%
売上総利益	452,029	414,782	△8.2%
営業利益(△損失)	△75,353	△1,156,931	—
経常利益(△損失)	△81,797	△1,170,355	—
親会社株主に帰属する当期純利益(△損失)	△31,898	△2,094,467	—

経常損失⇒新株発行費等及び為替差損の計上

親会社株主に帰属する当期純損失⇒減損損失及び固定資産除却損の計上

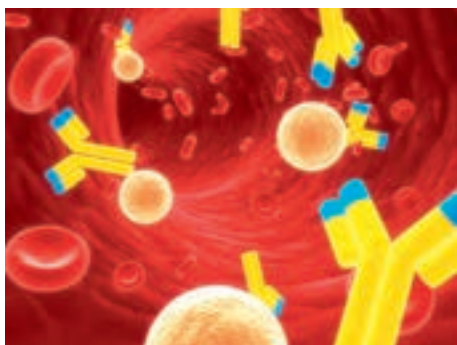
グローバル社会における バイオベンチャーとしての IBLグループの役割



当社の企業理念である「抗体を通じて、世界で難病に苦しむ人々が1日も早く病気を克服し明るく豊かな暮らしを営めるように貢献いたします。」は、1982年に創業以来、34年経った現在も変わることはありません。

生活習慣が原因で発症するメタボリックシンドローム(高血圧、高血糖、脂質異常症など)関連疾患や、老化に伴うアルツハイマー病などの疾患は増加する一方であり、より優れた診断方法や治療薬の開発へのニーズは高まるばかりです。

当社においても、当連結会計年度において、アルツハイマー病関連、腎疾患関連、糖代謝関連、及び脂質

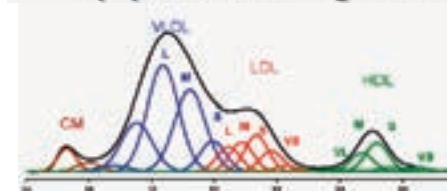


代謝関連疾患に係る分子に対する抗体及び測定系を多く開発し上市いたしました。

中でも、アルツハイマー病に関連する分子であるアミロイドβの内、神経毒性を有する毒性オリゴマーに対する抗体及びELISAキットは新しい研究用ツールとして、あるいは治療薬シーズとして期待されるものです。さらに、難聴・めまい、筋ジストロフィー関連分子などに関する研究開発も続けております。研究機関、医薬関連メーカー、産学機関など、世界中のより多くの研究者の皆様へ、高品質で有用な研究ツールとして、抗体やELISAキットを供給し続けることがバイオベンチャーとしての当社の役割であると信じ、その目的に向かって邁進してまいります。

最先端のリポタンパク質分析 “LipoSEARCH” を世界に向けて販促強化

LipoSEARCH
Lipoprotein Profiling Service



リポタンパク質とは、血液中のコレステロールや中性脂肪を運ぶ役割を持ったタンパク質であり、動脈硬化などに関与しております。当社の連結子会社株式会社スカイライト・バイオテックが提供するリポタンパク質分析サービス“LipoSEARCH”(国際特許取得済



み)は、高速液体クロマトグラフィーを用いた独自分析技術によって、このリポタンパク質を20分画して詳細に分

析するサービスです。これまで大手製薬企業、食品関連企業、大学などのアカデミアに対して提供してまいりました。昨年から、診断・試薬部門との営業活動を共有化し、国内外の学会展示を共同で行うなど、双方のマーケット市場において販促活動を強化しております。また、新たに導入したコレステロールの吸収と合成のバランスを調べるための新規サービスや非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)関連研究・開発向けに、血中遊離コリン測定サービスなどを開始しております。当社グループ間にてリソースやネットワークを共有し、グローバル市場に向けて積極的な販促活動を行ってまいります。

【蚕業革命】

世界ではじめての試みである「遺伝子組換えカイコが産出する繭(まゆ)から、医薬品原料に使用可能なレベルの高品質な有用タンパク質を安定的に生産する」という新たな生産系確立の実現への道は決して平坦なものではありませんが、皆様のご支援のもと、着実に実用化へ向けて、邁進してまいります。



【研究開発項目(医薬品原料)】

ヒト型フィブリノゲン

株式会社アステラス製薬との共同研究開発において、遺伝子組換えカイコの繭から生産されるヒト型フィブリノゲンの産生量の向上を図るとともに、大量飼育設備による安定した大量飼育方法の構築を目指します。

HIV感染症

株式会社CUREDとの共同研究として、当社が所有する抗HIV抗体のADCC活性を当社の遺伝子組換えカイコ技術を用いて飛躍的に増強させ、HIV感染症を治癒に導く画期的な抗体医薬品の実用化を目指します。



成人T細胞白血病(ATL)

琉球大学との共同研究により開発してきたヒト化抗HTLV-1抗体を遺伝子組換えカイコにて生産し、成人T細胞白血病(ATL)を治療する抗体医薬品の開発を開始します。

当社は、新たな研究開発項目として、糖鎖構造の特徴から高ADCC活性抗体が生産できる遺伝子組換えカイコの利点を生かし、癌等を治療する抗体を製造し、バイオバスターとして実用化することを目指します。

【研究開発項目(動物医薬品原料、体外診断用医薬品原料)】

動物用医薬品原料

動物用医薬品メーカーと共同で、遺伝子組換えカイコによって動物用医薬品原料となるタンパク質の生産を進めております。

研究用試薬および体外診断用医薬品原料としての抗体開発

研究用試薬や体外診断用医薬品に使用する抗体を、遺伝子組換えカイコにより生産する技術を開発してまいりました。この技術を活用して、当社の製品であるアミロイドβ測定キットに用いている抗体を、遺伝

子組換えカイコ生産抗体に切り替えたほか、大手体外診断用医薬品メーカーへも、抗体の供給を行っております。



【製品化】

ラミニン511-E8 (iPS細胞等の培養足場材)

iPS細胞等の培養足場材として有効であるラミニン511-E8 フラグメント(ラミニン511-E8)を遺伝子組換えカイコにより製造し、昨年9月より、株式会社ニッピおよび株式会社マトリクスームを通して一般販売を開始しております。現在、増産へ向けてスケールアップを進めております。

ネオシルク®-ヒトコラーゲン (化粧品原料)

アレルギーを起こす危険性が低い安心・安全な化粧品原料ヒト型コラーゲン「ネオシルク®-ヒトコラーゲンI」を製品化し、化粧品業界へ展開しております。国内外からの引き合いも増加しており、増産へ向けてスケールアップの検討等を進めております。



第35期 定時株主総会の決議ご通知

平成29年6月29日開催の第35期定時株主総会において、下記のとおり報告並びに決議されましたので、ご通知申し上げます。

報告事項

- 第35期(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)事業報告、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
本件は、上記の内容を報告いたしました。
- 第35期(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)計算書類報告の件
本件は、上記の内容を報告いたしました。

決議事項

議案▶取締役6名選任の件

原案のとおり、清藤勉、前田雅弘、中川正人、小野寺昭子、富田正浩、福永健司の6氏が選任され就任いたしました。

会社の概況

会社概要 (平成29年3月31日現在)

商号	株式会社免疫生物研究所 Immuno-Biological Laboratories Co.,Ltd.
設立	昭和57年9月9日
資本金	2,271,815千円
従業員数	47名

主要な事業所

本社・研究所	群馬県藤岡市中字東田1091番地1
三笠研究所	北海道三笠市
前橋研究所	群馬県前橋市

子会社

株式会社スカイライト・バイオテック(連結子会社)
秋田県秋田市(本社・解析センター)、
東京都千代田区(東京サービスセンター)

役員 (平成29年6月29日現在)

取締役

代表取締役社長	清藤 勉	取締役	富田 正浩
取締役	前田 雅弘	取締役	福永 健司
取締役	中川 正人		
取締役	小野寺昭子		

監査役

常勤監査役	宗像 発秋		
監査役	石原 靖議		
監査役	田山 毅		

(注)1. 取締役福永健司氏は社外取締役であります。
2. 監査役石原靖議及び田山毅の両氏は、社外監査役であります。

株主メモ

証券コード	4570
単元株式数	100株
事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日
配当の基準日	期末配当/3月31日 中間配当/9月30日

株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711(通話料無料)
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。 公告掲載URL (http://www.ibl-japan.co.jp)

IBL 株式会社免疫生物研究所
Immuno-Biological Laboratories Co., Ltd.

〒375-0005 群馬県藤岡市中字東田1091番地1
TEL: 0274-22-2889(代表) <http://www.ibl-japan.co.jp>



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。森林に配慮して適切に管理された森林認証紙を使用し、環境に優しい植物油インキで印刷しています。